

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
☎ 042-795-7361 (FAX: 必
要に応じて186を頭に加える)
議会 042-724-2171
yoshidaben@gmail.com



被害建築物応急危険度判定と住家被害認定の相違について①

今期の一般質問で、被災した建物に関して、「被災建築物応急危険度判定」と「住家被害認定」の相違と、町田市職員の他自治体への派遣実績を尋ねました。



この間、何度も被災地に自分が出向いていたが、この両者の相違が十分に認識できず、倒壊家屋の見やすい場所に貼ってあるステッカー赤紙(危険)、黄紙(要注意)、調査済(緑紙)が、家屋の全壊、半壊等判定と同一的に考えてきました。前者は、被災後ただちに行政の担当職員によって行われるものです。居住者に限らず、通行人や歩行者にも、その建物の危険性を示すもので、二次災害の防止が目的になっています。後者は、地震や風水害等の自然災害により被害のあった住宅について、内閣府の定める「災害の被害認定基準」等に基づき、「被害の程度」を認定する調査のことで、「全壊」、「大規模半壊」、「中規模半壊」、「準半壊」、「一部損壊」等に分けられており、保険請求などに適用されるというものでした。また、公的な補償や復旧に関しては、国の激甚災害指定や自治体の指定措置によって異なるというものでした。(続く)

鶴川駅前整備とデッキ工事とバス停屋根

小田急線鶴川駅北口交通広場の路面工事が始まり、歩道部分のバス停にも広範囲に屋根が設置され、雨や雪を防いだり、夏場の強い日差しを防ぐ対策が進んでいます。その設備では、以前からある玉川学園前駅やJR横浜線成瀬駅のバス停の屋根設備に比べると、駅の改札口からの連続した屋根となっており、快適なものとなっています。これは最近整備された南町田駅北口のバス停屋根に匹敵すると言えます。

そうした中で、「鶴川団地行きのバス停が屋根無しの状態になっており、バスの到着を待つ人にとって、夏場の猛暑や冬場の雪や冷たい雨をどうやってしのげばよいのか」という質問、いわゆる陳情をいただきました。市役所の担当者の話では、その部分は高架駅舎のデッキ部分と連なり、同時に屋根工事も完了すると言うものでした。結果的に完工予定は2年後ということなので、二夏、二冬を過ごすことになり、それでは利用者市民には納得できないものでした。調べると、地元の岩瀬和子議員が今期議会の一般質問に、鶴川駅周辺再整備事業の項目を入れていました。住民要望に即した提案と行政の解決策を引き出してくれるものでしょう。



○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう！

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
夏季休暇期間中の募集開始

委員会質疑:交通安全施策と事故の現状

総務常任委員会の質疑で、「交通安全施策で予算上パンフレットはあるか」と問いました。「町田市独自なものはない」という答弁がありました。交通安全に関しては、基礎的な教育が大事で、特に高齢者や子ども・若者への啓発が必要ですが、町田市は中学校で交通安全教育(スタントが実演で事故を再現する)等を実施しているとの説明がありましたが、次の委員の質疑ではさらに詳しい説明がありました。

町田市は交通安全活動に関して、一般対象では商業施設で行う場合もあるというものでした。あるいは、大学生と連携した啓発のメッセージを発しているというものもありました。

交通安全の基礎的な課題を問うと、自転車も車両等の一種であり、左側通行が基本であり、自転車は「夜間反射材」の取付が義務であり、つけることで安全性が高まるとの説明がありました。事故状況に関して、市民の自転車の事故は増えているか、減少しているかを問うと、2021年240件、2022年332件、2023年332件と言うもので、コロナから回復基調で事故が増えているとの説明でした。



交通安全協会のパトロールカー

NIKKEI MESSE 建築・建材展 2024 を見学

東京ビックサイトに赴き、NIKKEI MESSE 建築・建材展 2024 を見学しました(2024. 3. 14)

会場では、建築器材の様々の分野のメーカーがそれぞれに得意商品や意匠を展示していました。きらびやかな照明に飾られ、その照明自体も大きな展示会の展示目的とされていました。結果的には、それを使って大きな部材を作る事業者、あるいはその施工業者の皆さんが集まっていました。



自分の経歴・経験で土木建設資材を販売していたのですが、「建築資材」は全く別物であり、出店企業名の大半は知らない会社でした。例えば、床材の日大工業(直方建材グループ)、緑化の山崎産業、ガラス照明メーカーの宮古硝子、デッキ材のMINO、階段の滑り止めのAssist(アシスト)を様々が初めて名前を聞く企業名でした。また、中国出展コーナーの勢いのすごさを感じました。ここでは、ライティングのコーナーに50社近い企業が並び、深圳や中山、厦門という日ごろから知っている地名もあれば、知らない都市名を冠した企業もありました。北京や上海、広東と言う名前以外に工場集積地が無数に誕生していることがうかがえました。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2023年9月末までに105名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。